
グリーンリバーホールディングス
佐賀市でのバイオマス資源利活用型スマートアグリファクトリーが完成
7月より本格稼働を開始

【リリースの概要】

I o Tを活用した農業を推進するグリーンリバーホールディングス株式会社の傘下であるグリーンラボ株式会社（本社：福岡県福岡市博多区、代表取締役：長瀬勝義）と佐賀県佐賀市（市長：秀島敏行）は、2019年3月に締結した「バイオマス資源利活用協定」のもと、独自の縦型水耕栽培装置である「3D高密度栽培」と、佐賀市清掃工場の余熱とC o 2を組み合わせたバジル生産向け植物工場「さがベース（＝圃場）」を2019年6月27日に竣工し、7月より本格稼働を開始します。

【さがベース 外観】**【ファクトリー 内観】****【「さがベース」について】**

敷地面積約5,000㎡に農業新規参入企業棟1棟と自社ファクトリー（＝栽培工場）3棟の計4棟の3連棟型ビニールハウスが並び、佐賀市清掃工場でごみを焼却することで発生する余熱とC o 2をハウス内でのバジル栽培に利活用します。加温エネルギーコストの削減、環境に配慮した循環型社会の形成を実現するとともに、佐賀市と協力して周辺地域の農業活性に伴う雇用拡大を目指します。自社ファ

クトリー3棟の建設資金については、株式会社日本政策金融公庫の農業経営基盤強化基金（スーパーL資金）を活用しています。グリーンリバーホールディングスグループが手掛けるスマートアグリファクトリー事業は、現在国内4カ所で稼働しており、このたびの「さがベース」で5カ所目となります。

【「バイオマス資源利活用協定書」とは】

佐賀市は、2014年7月に「佐賀バイオマス産業都市構想」を策定し、環境の保全と経済的な発展が両立するまち「バイオマス産業都市さが」の実現を目指し取り組んでいます。そのバイオマス資源を利活用するための協定書です。

【3D高密度栽培とは】

同社が開発した、縦型水耕栽培プランター「BiGrow（バイグロウ）」装置を使った密植栽培方法です。「BiGrow」は高さ150cmの縦型プランターで、4面ある側面の内2面で栽培する両面栽培が可能です。縦の空間を利用することで、1プランターに14～18株の苗を定植でき、バジルの一般的な露地栽培と比較して、面積比約10倍以上の収穫が可能です。葉物野菜には特に幅広くに対応しており、また、温度や湿度、養液等をIoTで制御することにより、栽培環境の管理にかかる手間や負担を軽減しています。各ベースの状況も随時モバイル端末で確認、遠隔制御可能な次世代型農業システムです。

【IoTにより遠隔からでも環境制御が可能】



グリーンリバーホールディングスグループは、これからも生産性の高い独自の農業システムと地域資源を活用した産業を創出し、社会負荷の少ない持続可能な農業の実現と地域雇用及び所得向上を推進してまいります。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

グリーンリバーホールディングス株式会社

〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前1-4-4 JPR 博多 11F

TEL. 092-471-7332 (担当者：岩下)

佐賀市 企画調整部 新産業推進課

二酸化炭素活用推進室

〒830-8501 佐賀県佐賀市栄町1番1号

TEL. 0952-40-7192 (担当者：増本・田中)

●関連情報

【本件に関する詳細ページ】

<https://www.greenriver-hd.co.jp/>

(グリーンリバーホールディングス ホームページ)